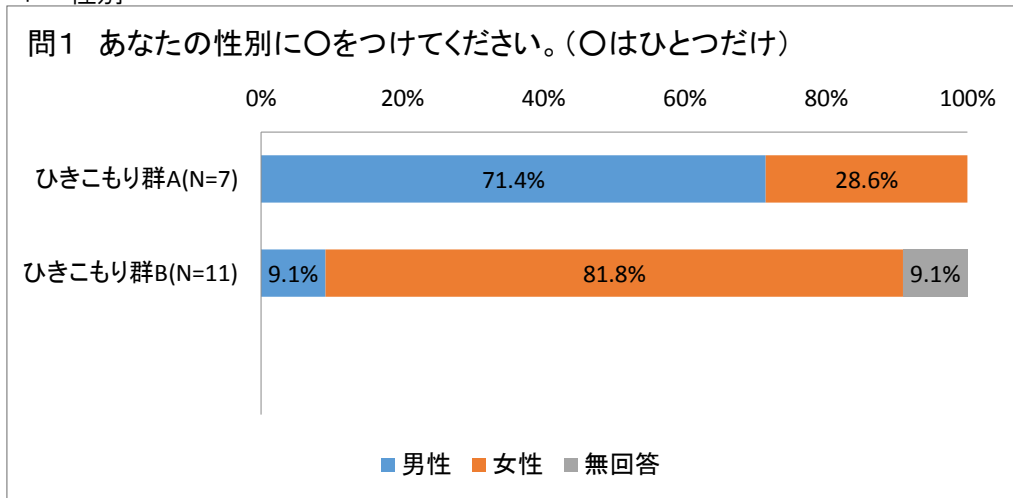


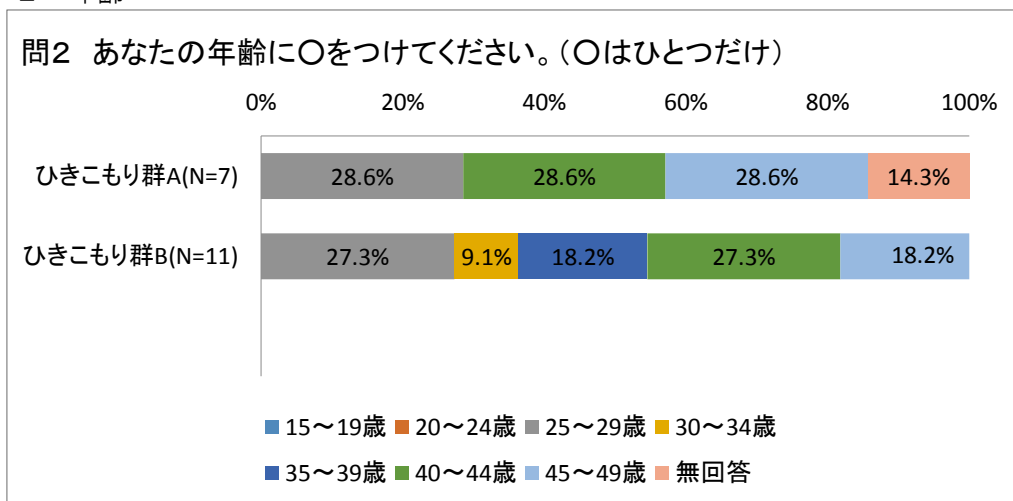
Ⅶ ひきこもり群Aとひきこもり群Bの比較分析（主要箇所の抜粋）

1 性別



回答者の性別は、ひきこもり群Aは「男性」71.4%、「女性」28.6%、ひきこもり群Bでは、「男性」9.1%、「女性」81.8%であった。ひきこもり群Aは「男性」が最も多く、ひきこもり群Bでは、女性が最も多いことが分かる。

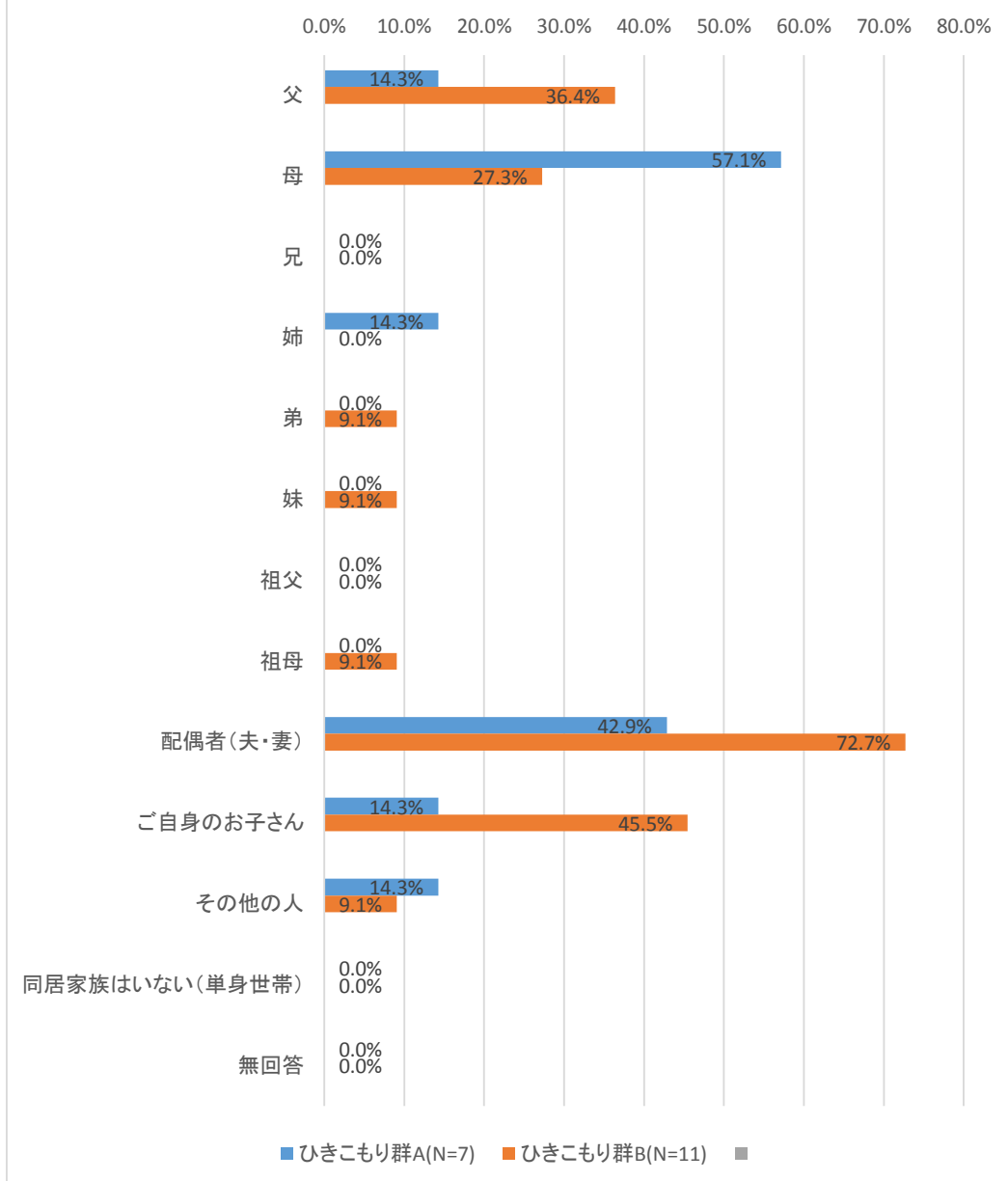
2 年齢



回答者の年齢はひきこもり群Aでは、「25歳～29歳」28.6%、「40歳～44歳」28.6%、「45歳～49歳」28.6%であった。ひきこもり群Bでは、「25歳～29歳」27.3%、「30歳～34歳」9.1%、「35歳～39歳」18.2%、「40歳～44歳」27.3%、「45歳～49歳」18.2%であった。特にひきこもり群Aでは、40代が57.2%と最も多く、次いで20代の層に多い傾向が見られた。また、ひきこもり群Bでは、20代・30代がいずれも27.3%、40代は45.5%となった。

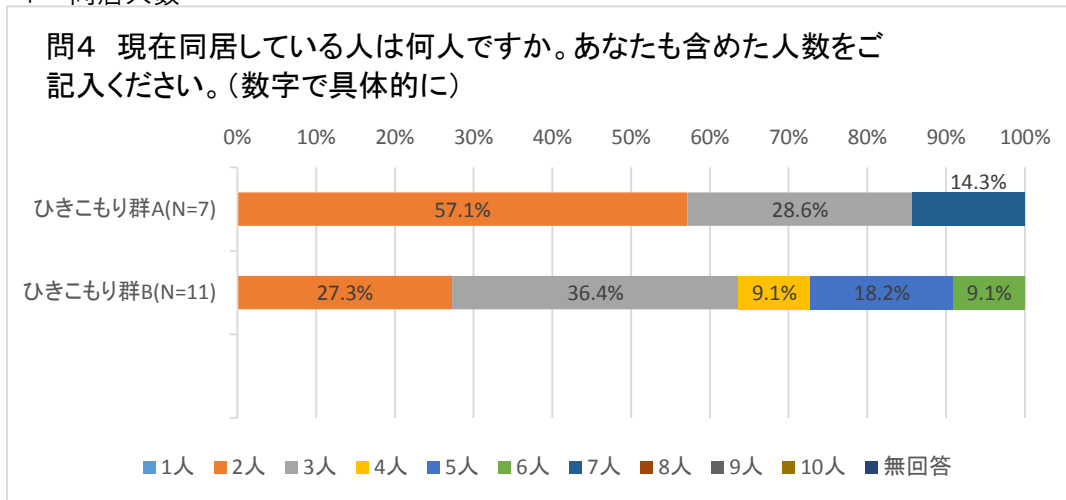
3 同居家族

問3 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。
(○はいくつでも)



同居家族について聞いたところ、ひきこもり群Aは母親との同居が57.1%、次いで配偶者(夫・妻)との同居が42.9%と多い、ひきこもり群Bは配偶者(夫・妻)との同居が72.7%、次いでご自身のお子さんとの同居が45.5%と多い。ひきこもり群Aは、母親や配偶者(夫・妻)との同居率が高く、ひきこもり群Bは配偶者(夫・妻)や子どもとの同居率が高い傾向にある。

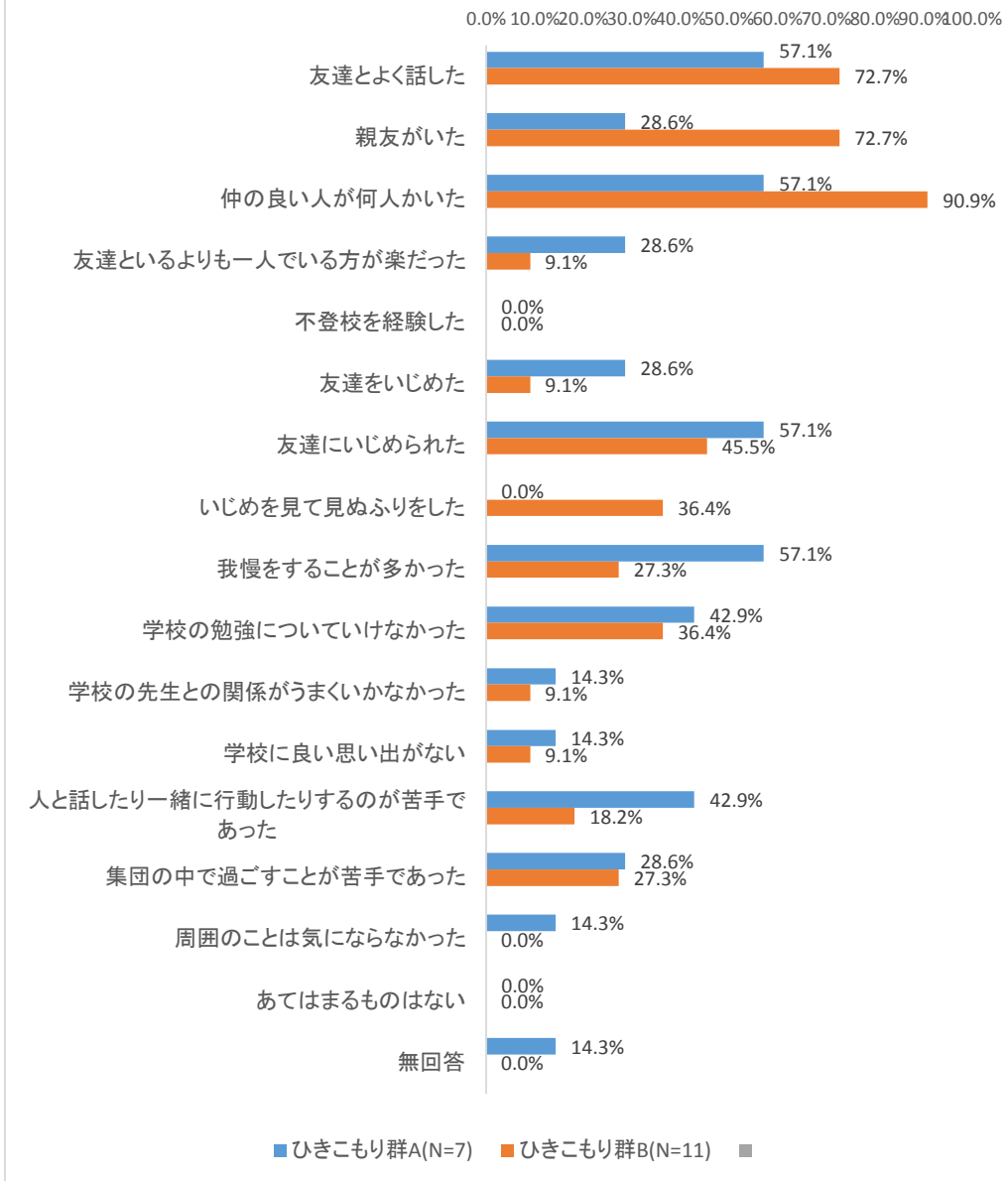
4 同居人数



同居人数はひきこもり群Aは2人が57.1%、3人が28.6%、7人が14.3%、ひきこもり群Bは2人が27.3%、3人が36.4%、4人が9.1%、5人が18.2%、6人が9.1%となっている。

8 小中学校時代での経験

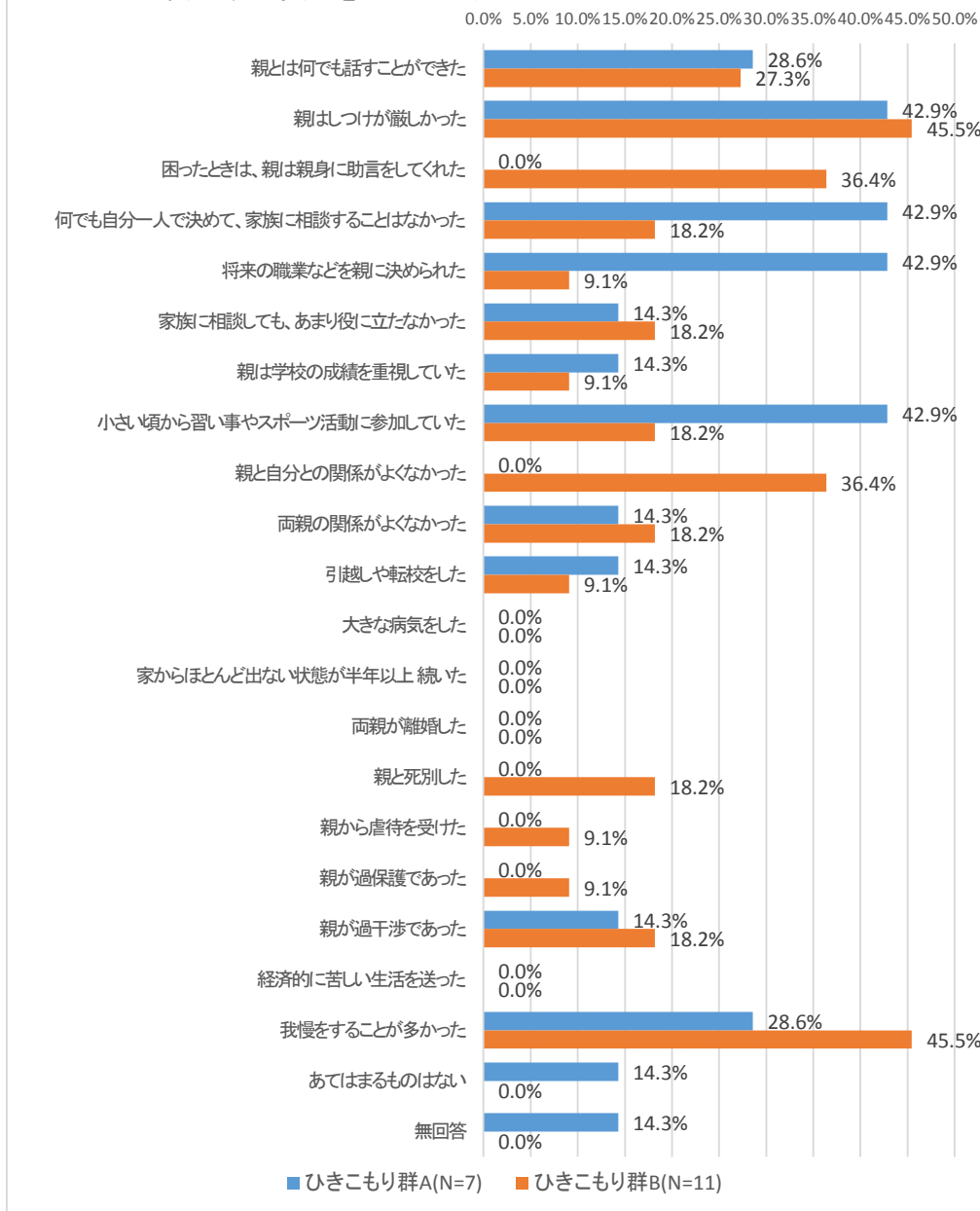
問8 あなたは小学校や中学校の頃に、学校で次のようなことを経験したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
(○はいくつでも)



小学校や中学校の頃に学校で経験したことについて聞いたところ、ひきこもり群Aでは「友達とよく話した」、「仲の良い人が何人かいた」がいずれも57.1%。その反面マイナス体験として「友達にいじめられた」、「我慢をすることが多かった」いずれも57.1%、次いで「学校の勉強についていけなかった」、「人と話したり一緒に行動したりするのが苦手であった」がいずれも42.9%であった。ひきこもり群Bでは「仲の良い人が何人かいた」90.9%、次いで「友達とよく話をした」、「親友がいた」が72.7%で、マイナス体験として「友達にいじめられた」45.5%、次いで「いじめを見て見ぬふりをした」、「学校の勉強についていけなかった」36.4%、「集団の中で過ごすことが苦手であった」が27.3%であった。ひきこもり群Aはひきこもり群Bと比べて、友達との関係性が低く、いじめられたり我慢をしたり、勉強や集団生活についていけなかったりする経験が高い傾向にあった。また、両群に共通することは、「友達にいじめられた」、「学校の勉強についていけなかった」、「集団の中で過ごすことが苦手であった」項目の割合が高かったことである。

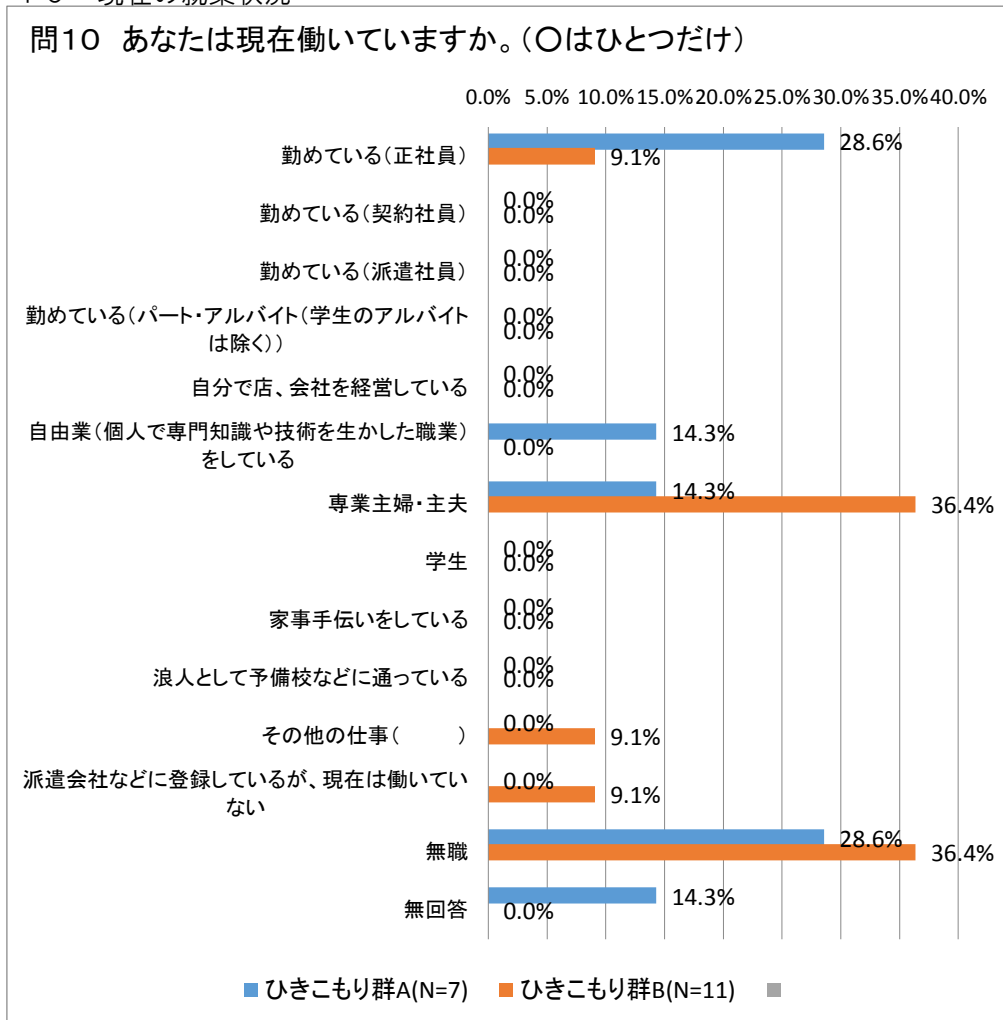
9 小中学校時代の家庭での経験

問9 あなたは小学校や中学校の頃に、家庭で次のようなことを経験したことがありますか。(○をいくつでも)



小学校や中学校の頃に、家庭での経験を聞いたところ、ひきこもり群A、ひきこもり群Bとも「親とは何でも話すことができた」（A群28.6%、B群27.3%）、「親はしつけが厳しかった」（群A42.9%、群B45.5%）、「親が過干渉であった」（群A14.3%、群B18.2%）、「家族に相談しても、あまり役に立たなかった」又は「両親の関係がよくなかった」（A群14.3%、B群18.2%）となった。ひきこもり群AではひきこもりB群と比べて「何でも自分一人で決めて、家族に相談することはなかった」、「将来の職業などを親に決められた」が42.9%と多かった。ひきこもり群Bはひきこもり群Aよりも「困ったときは、親は親身に助言をしてくれた」、「親と自分との関係がよくなかった」が36.4%、「親と死別した」が18.2%と最も多かった。また、注目すべきところはひきこもり群Bは「我慢をすることが多かった」（群A28.6%、群B45.5%）が高く、「親はしつけが厳しかった」、「家族に相談しても、あまり役に立たなかった」、「親と自分との関係がよくなかった」、「両親の関係がよくなかった」、「親と死別した」、「親から虐待を受けた」、「親が過保護であった」、「親が過干渉であった」の項目がいずれもひきこもり群Aより上回った点である。ひきこもり群Bはひきこもり群Aと比べても、家庭で親との関係に不自由さや葛藤を抱えていたことが分かる。

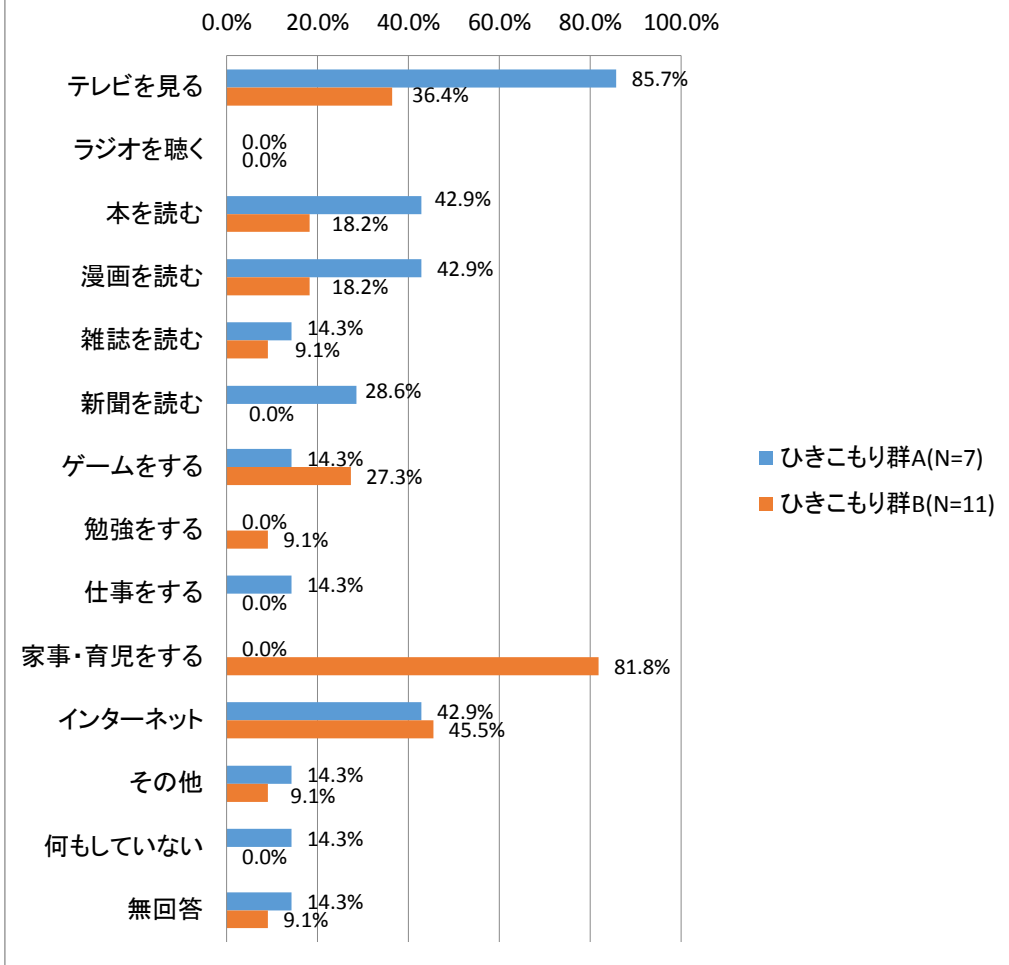
10 現在の就業状況



現在の就業状況を聞いたところ、ひきこもり群Aは「勤めている「正社員」、 「無職」が多く、ひきこもり群Bは「専業主婦・主夫」、「無職」が36.4%と多かった。

15 ふだん自宅をよくしていること

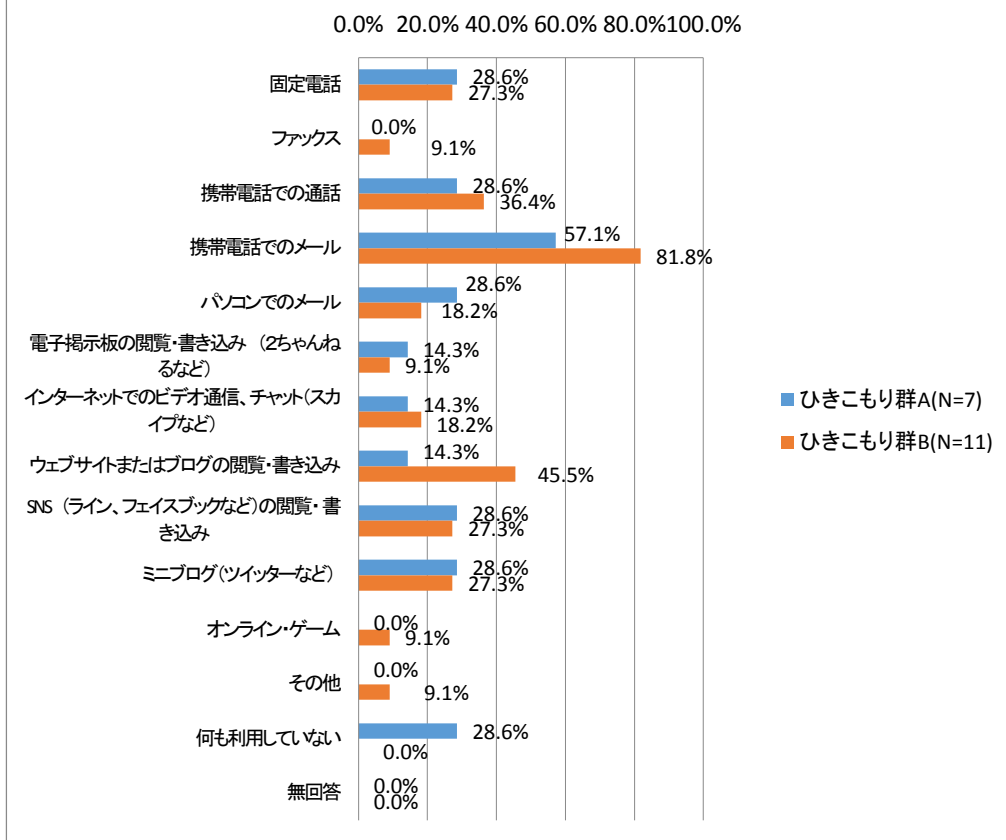
問15 ふだん自宅にいるときによくしていることに○をつけてください。(○はいくつでも)



ふだん自宅にいるときによくしていることについて聞いたところ、ひきこもり群Aでは「テレビを見る」85.7%、「本を読む」、「漫画を読む」、「インターネット」がいずれも42.9%、ひきこもり群Bでは「家事・育児をする」81.8%、「インターネット」45.5%、「テレビを見る」36.4%となった。

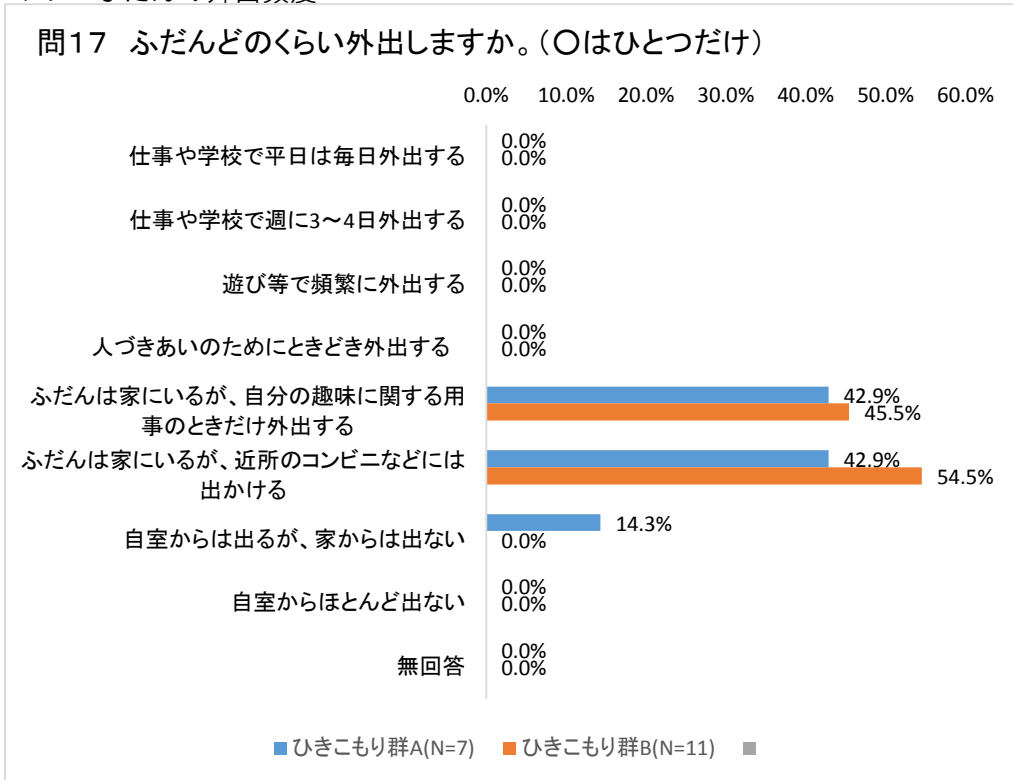
16 通信手段でふだん利用しているもの

問16 以下に挙げられた通信手段の中で、ふだん利用しているものに○をつけてください。(○はいくつでも)



ふだん利用している通信手段について聞いたところ、ひきこもり群A、ひきこもり群Bとも、「携帯電話でのメール」が最も多かった。ひきこもり群Aでは「携帯電話でのメール」、「固定電話」、「携帯電話での通話」、「SNS」、「ミニブログ」が多い傾向に対して、ひきこもり群Bでは「ウェブサイトまたはブログの閲覧・書き込み」、「携帯電話での通話」、「固定電話」、「SNS」、「ミニブログ」が多かった。ひきこもり群Aはひきこもり群Bと比べて、「何も利用していない」(群A 28.6%、群B 0%)、ひきこもり群Bはひきこもり群Aと比べて「ウェブサイトまたはブログの閲覧・書き込み」(A群 14.3%、B群 45.5%)が高かった。

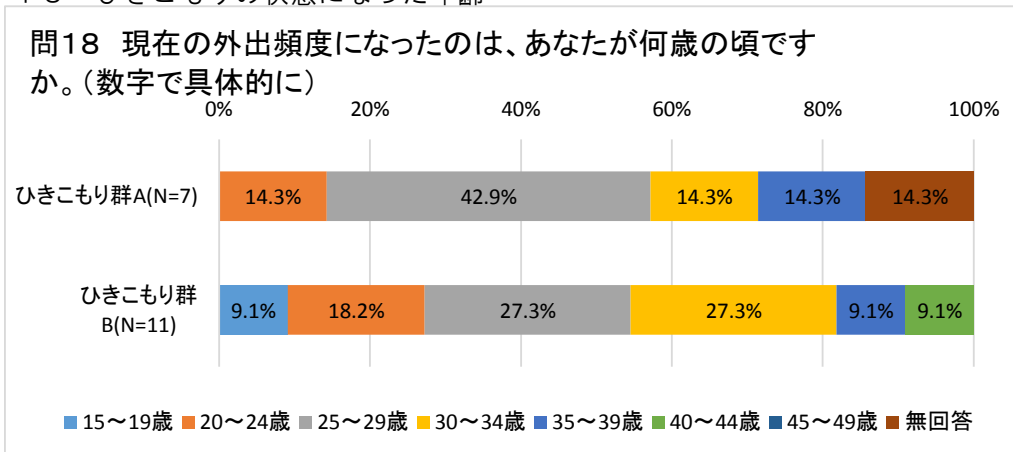
17 ふだんの外出頻度



ふだんの外出頻度について聞いたところ、ひきこもり群Aとひきこもり群Bでは、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみ外出する」（群A 42.9%、群B 45.5%）、「ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」（群A 42.9%、群B 54.5%）、「自室からは出るが、家からは出ない」（群A 14.3%、群B 0%）となった。

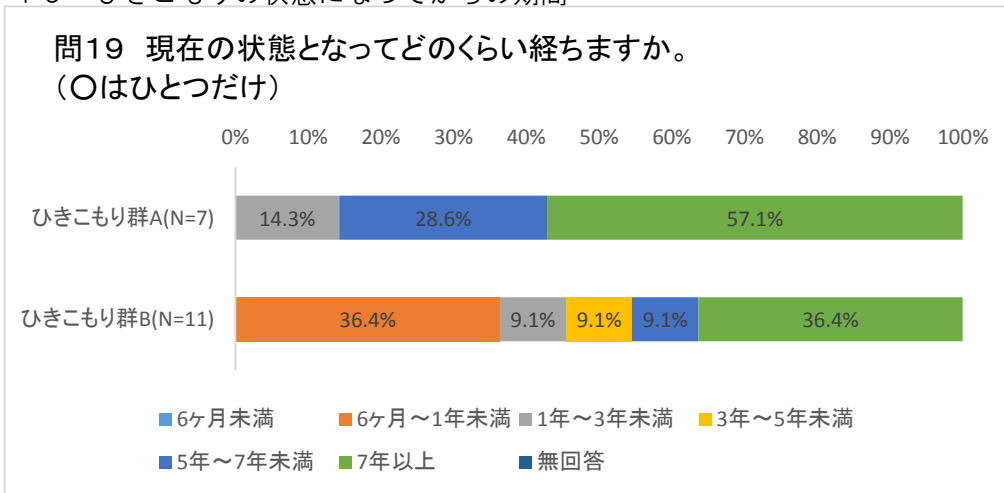
問18～23は問17において外出頻度が低かった人（「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみ外出する」から「自室からほとんど出ない」を選択した人）のみが回答する項目である。本報告書では、その中でもひきこもり傾向群に該当する人の結果についてのみ掲載する。

18 ひきこもりの状態になった年齢



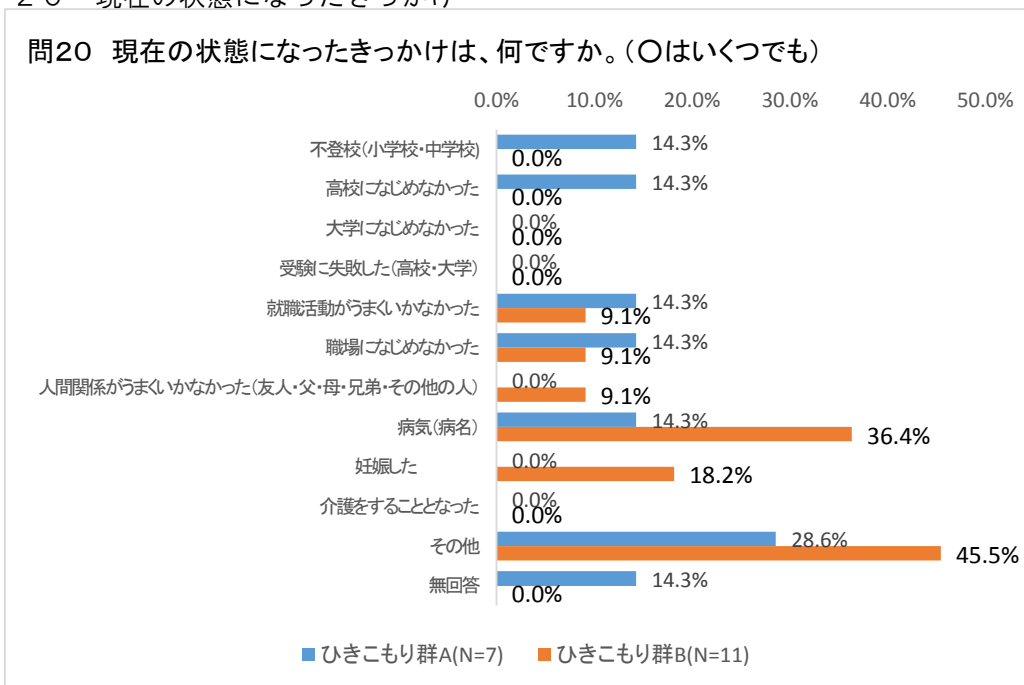
現在の状態になったのは何歳の頃かについて聞いたところ、ひきこもり群Aでは「20～24歳」が14.3%、「25～29歳」が42.9%、「30～34歳」が14.3%、「35～39歳」が14.3%で、20代が57.2%、次に30代が28.6%となった。ひきこもり群Bでは、「15～19歳」9.1%、「20～24歳」18.2%、「25～29歳」27.3%、「30～34歳」27.3%、「35～39歳」9.1%、「40～44歳」9.1%で、20代が45.5%、30代が36.4%、40代が9.1%となった。ひきこもり群A・群Bともに20代・30代が全体の約8割を占めることが分かった。

19 ひきこもりの状態になってからの期間



現在の状態になってからの期間について聞いたところ、ひきこもり群Aが、「7年以上」が57.1%、「5年～7年未満」が28.6%、「1年～3年未満」が14.3%となった。「5年以上」が85.7%とひきこもり群Aは長期化傾向にある。ひきこもり群Bでは、「7年以上」及び「6ヶ月～1年未満」がいずれも36.4%、「1年～3年未満」及び「3年～5年未満」並びに「5年～7年未満」が9.1%となった。ひきこもり群Bでは、「5年以上」45.5%で、ひきこもり群Aと比べると長期化傾向はゆるやかな数値となった。

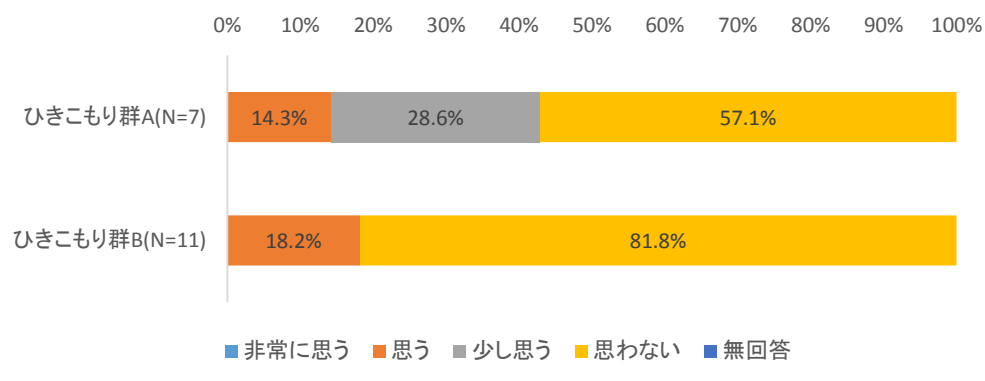
20 現在の状態になったきっかけ



現在の状態になったきっかけについて聞いたところ、ひきこもり群Aでは、「その他」28.6%（主に仕事の業務に関すること）、「病気」（病名不詳）、「不登校」、「高校になじめなかった」、「就職活動がうまくいかなかった」、「職場になじめなかった」はそれぞれ14.3%となった。ひきこもり群Bでは、「その他」45.5%（主に面倒になった、失職、大学院中退、育児など）、「病気」36.4%（うつ病、統合失調症、社会不安障がい、全般性不安障がい、脳梗塞）、「妊娠した」18.2%、「就職活動がうまくいかなかった」、「職場になじめなかった」、「人間関係がうまくいかなかった」9.1%であった。両群ともその他や病気が多い傾向にある。

2.1 現在の状態について、関係機関に相談したいか

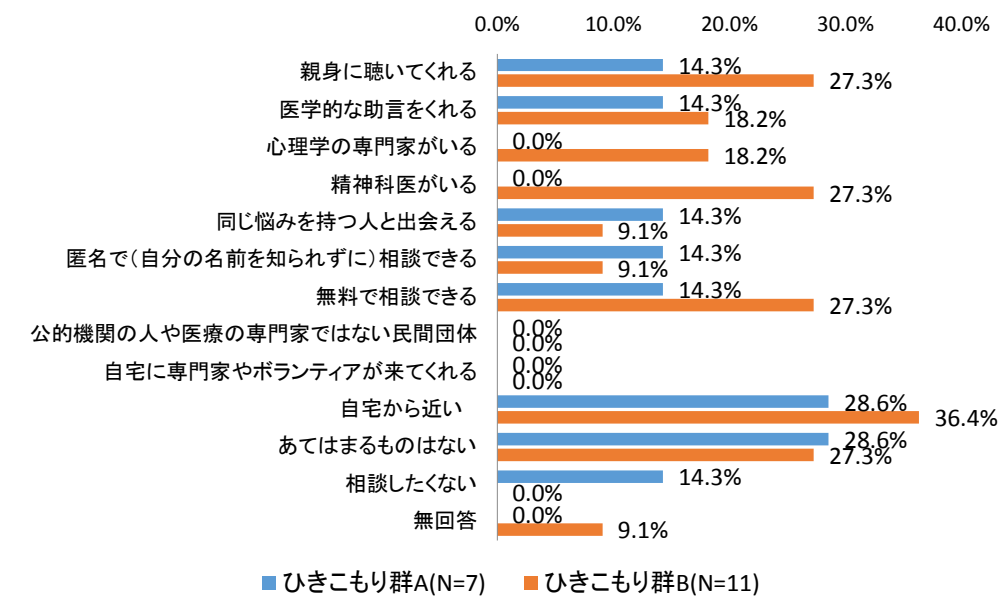
問21 現在の状態について、関係機関に相談したいと思いませんか。(○はひとつだけ)



現在の状態について、関係機関に相談したいかについて聞いてみたところ、ひきこもり群Aは「思う」14.3%、「少し思う」28.6%、「思わない」57.1%であった。ひきこもり群Bは、「思う」18.2%、「思わない」81.8%で、ひきこもり群Aと比べて、相談意欲が低い傾向にある。

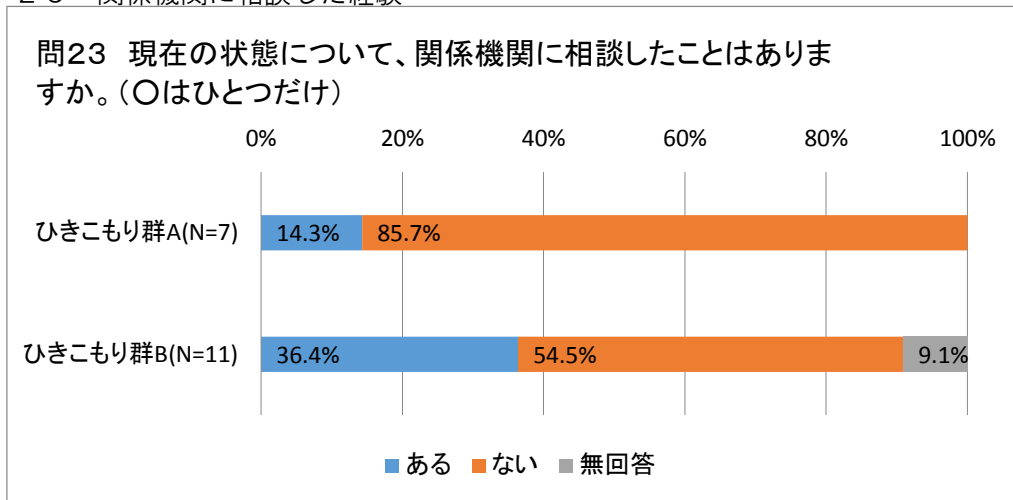
2.2 現在の状態について、どのような機関なら相談したいか

問22 現在の状態について、どのような機関なら相談したいと思いませんか。(○はいくつでも)



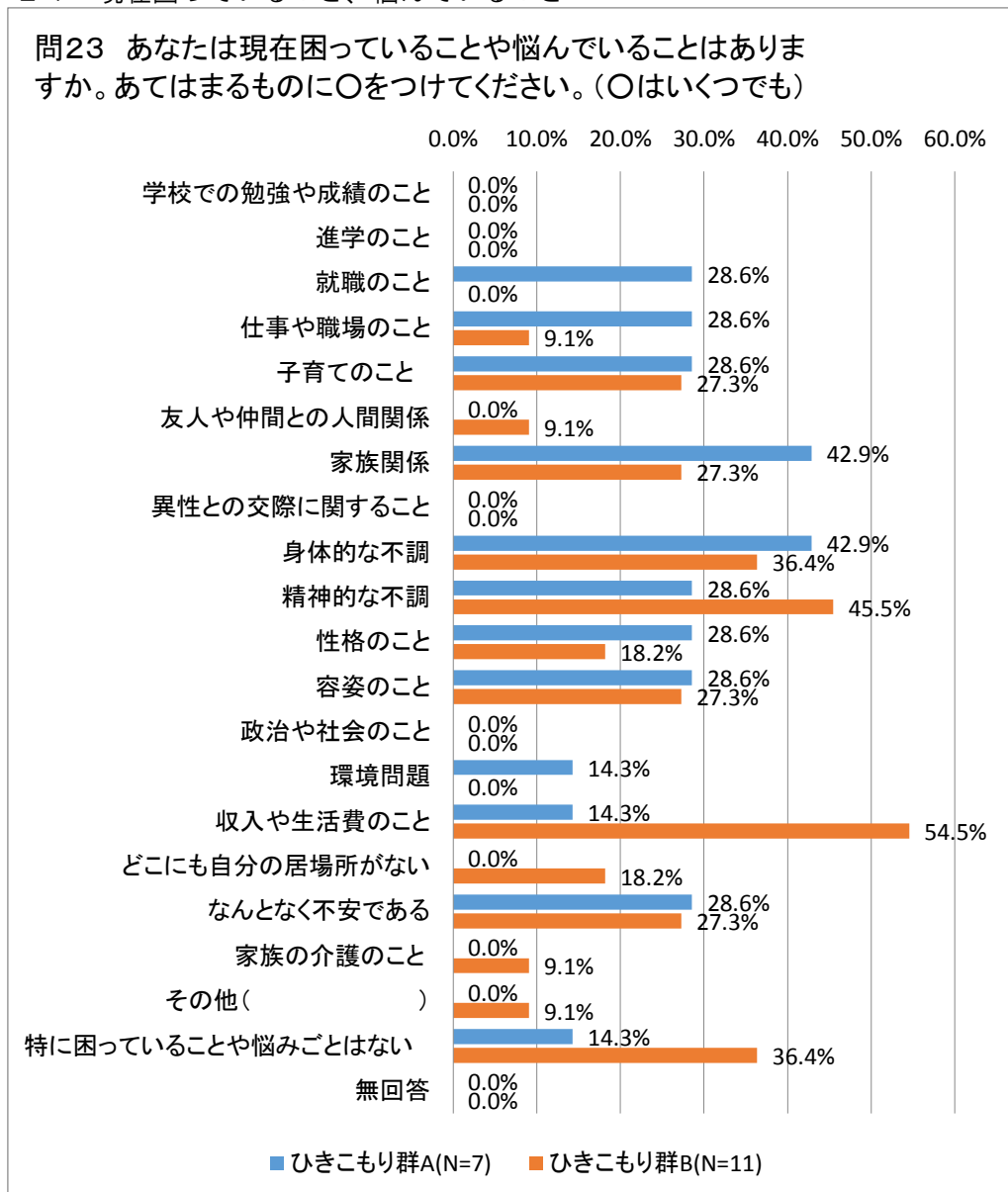
現在の状態について、どのような関係機関なら相談したいかについて聞いてみたところ、ひきこもり群A、ひきこもり群B共に、「自宅から近い」(A群28.6%、B群36.4%)、次に「あてはまるものはない」(A群28.6%、B群27.3%)となった。ひきこもり群Aは、ひきこもり群Bと比べて、「相談したくない」14.3%と多い、一方ひきこもり群Bでは、「精神科医がいる」27.3%、「心理学の専門家がいる」18.2%が多かった。

2.3 関係機関に相談した経験



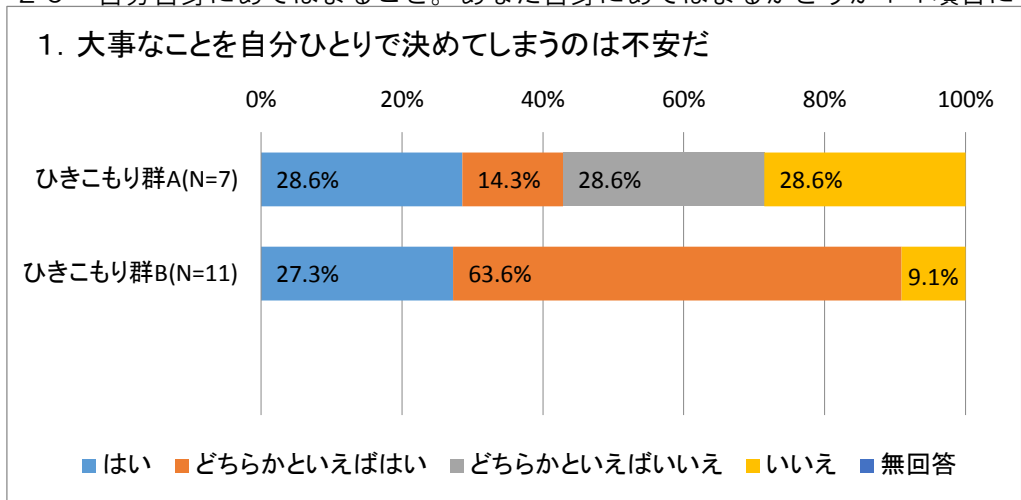
現在の状態について、関係機関に相談したことがあるかについて聞いてみたところ、ひきこもり群Aは「ある」14.3%、「ない」85.7%であった。ひきこもり群Bは「ある」36.4%、「ない」54.5%であった。ひきこもり群Aはひきこもり群Bより関係機関への相談した経験が低いことが分かる。

2.4 現在困っていること、悩んでいること

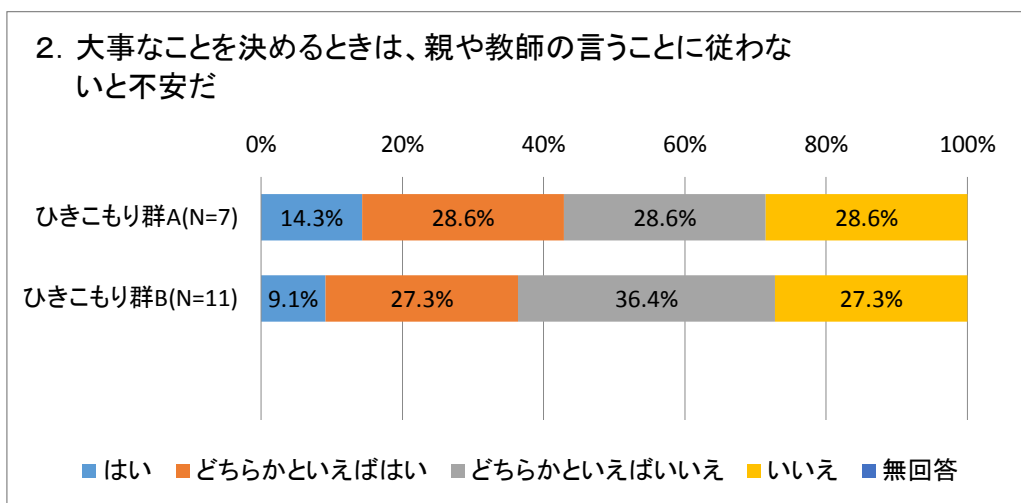


現在困っていることや悩んでいることについて聞いてみたところ、ひきこもり群Aでは「家族関係」又は「身体的な不調」42.9%が多く、ひきこもり群Bでは「収入や生活費のこと」54.5%、次に「精神的な不調」45.5%と多かった。ひきこもり群Aとひきこもり群Bとの比較では、ひきこもり群Aは「収入や生活費のこと」がひきこもり群Bより40ポイント低く、生活費についてはあまり大きな不安を感じていない傾向にある。ひきこもり群Bでは「どこにも自分の居場所がない」が18.2%と高かった。

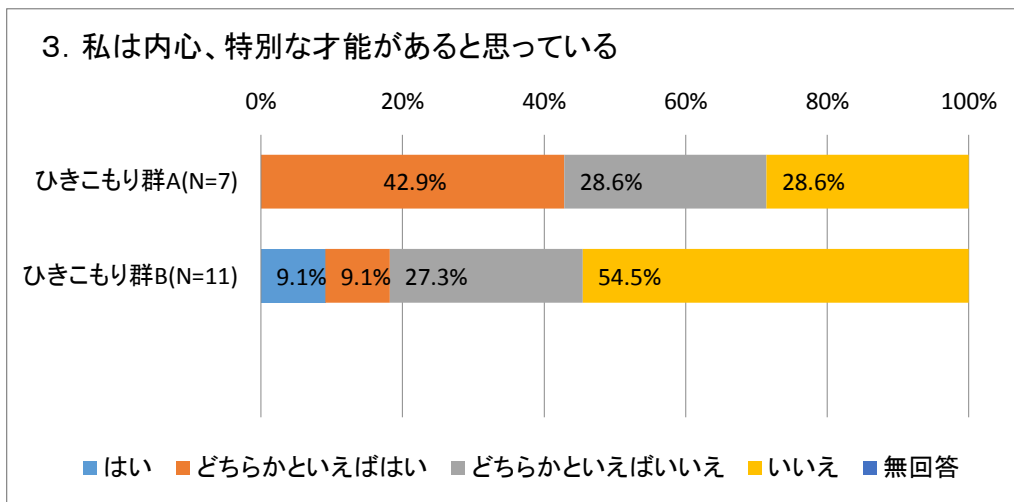
2.5 自分自身にあてはまること。あなた自身にあてはまるかどうか14項目について聞いて



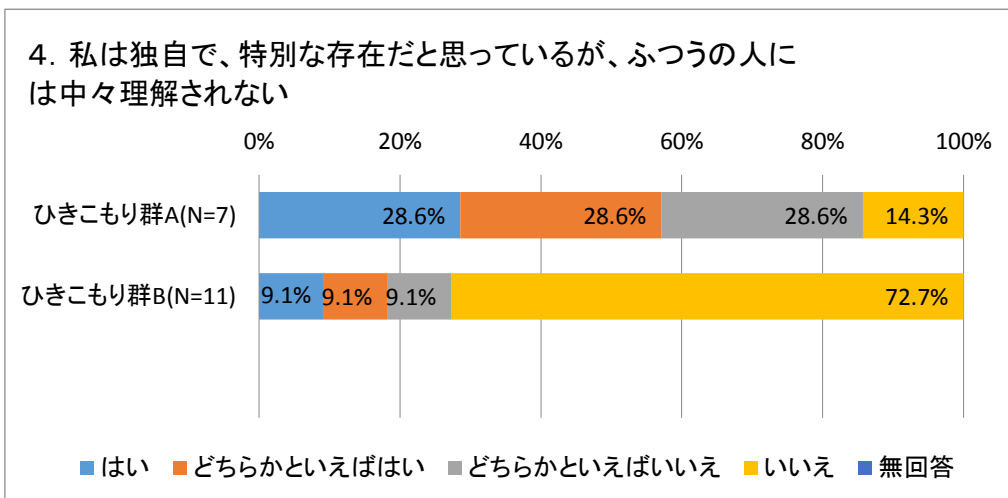
「大事なことを自分ひとりで決めてしまうことは不安だ」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは42.9%、ひきこもり群Bでは90.9%であった。



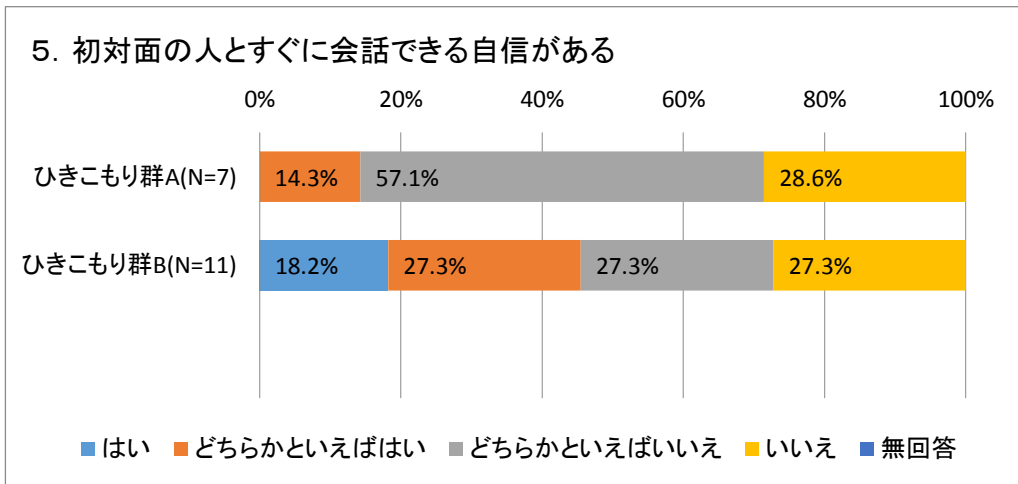
「大事なことを決めるときは、親や教師の言うことに従わないと不安だ」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは42.9%、ひきこもり群Bでは36.4%であった。



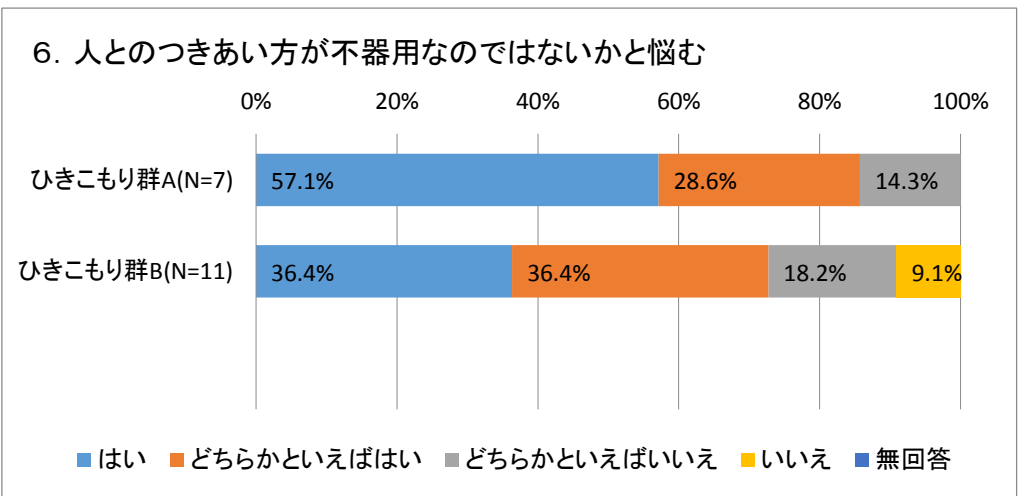
「私は内心、特別な才能があると思っている」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは42.9%、ひきこもり群Bでは18.2%であった。ひきこもり群Aは、ひきこもり群Bと比べて本当は理想の自分に近づきたいという気持ちが高い傾向にある。



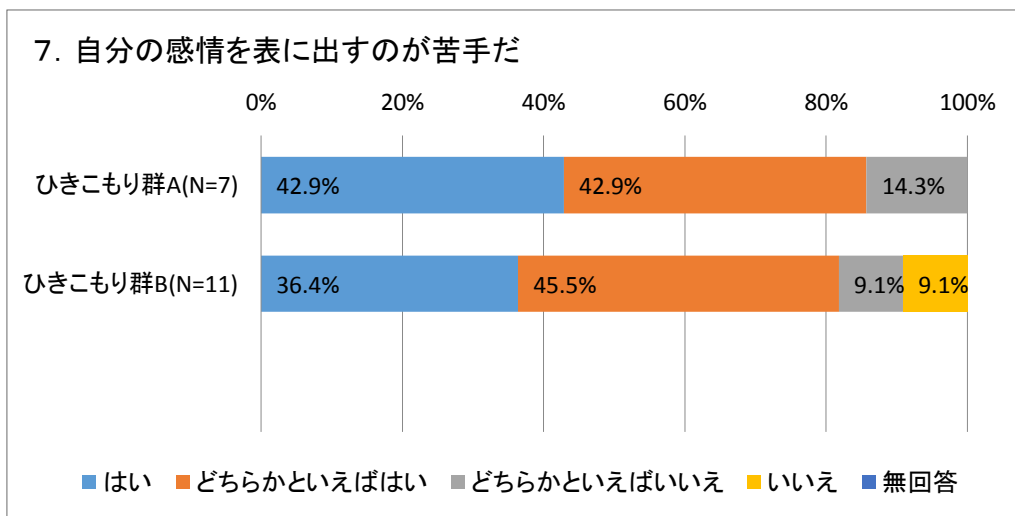
「私は独自で、特別な存在だと思っているが、ふつうの人には中々理解されない」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは57.2%、ひきこもり群Bでは18.2%であった。ひきこもり群Aは、周囲から理解されない存在として捉える傾向が高かった。



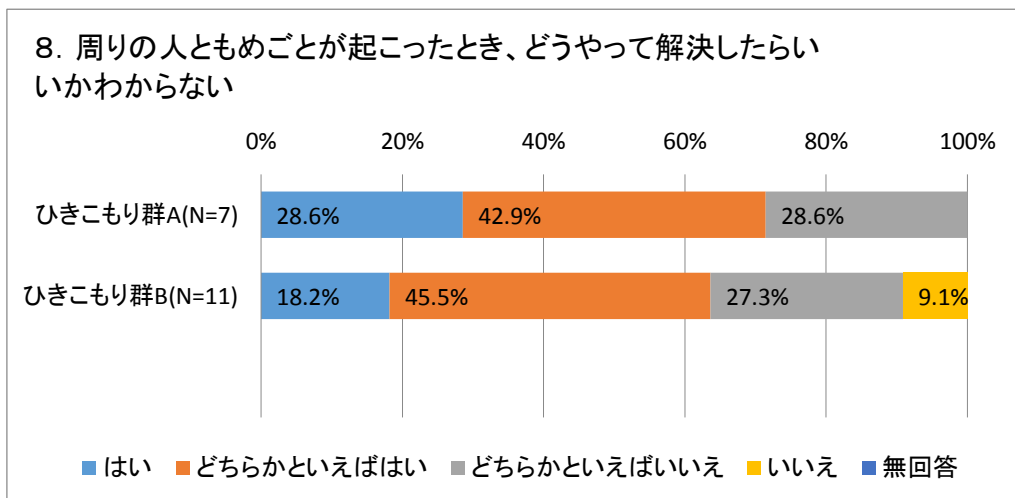
「初対面の人とすぐに会話できる自信がある」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは14.3%、ひきこもり群Bでは45.5%であった。ひきこもり群Aは、ひきこもり群Bと比べて、人との関わりに対して自信が持てない傾向がある。



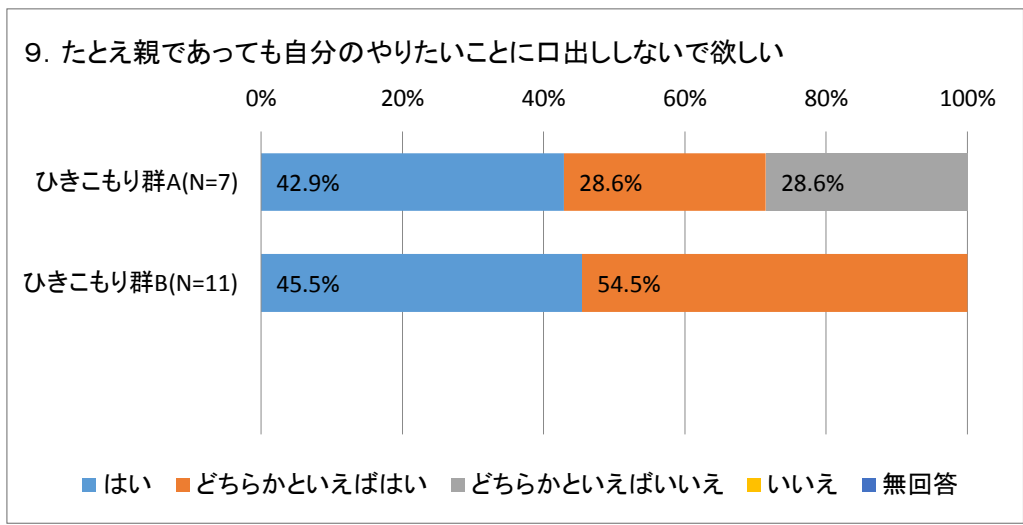
「人とのつきあい方が不器用なのではないかと悩む」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは85.7%、ひきこもり群Bでは72.8%であった。ひきこもり群Aとひきこもり群Bは、人づきあいに苦手さを抱えている傾向が高かった。



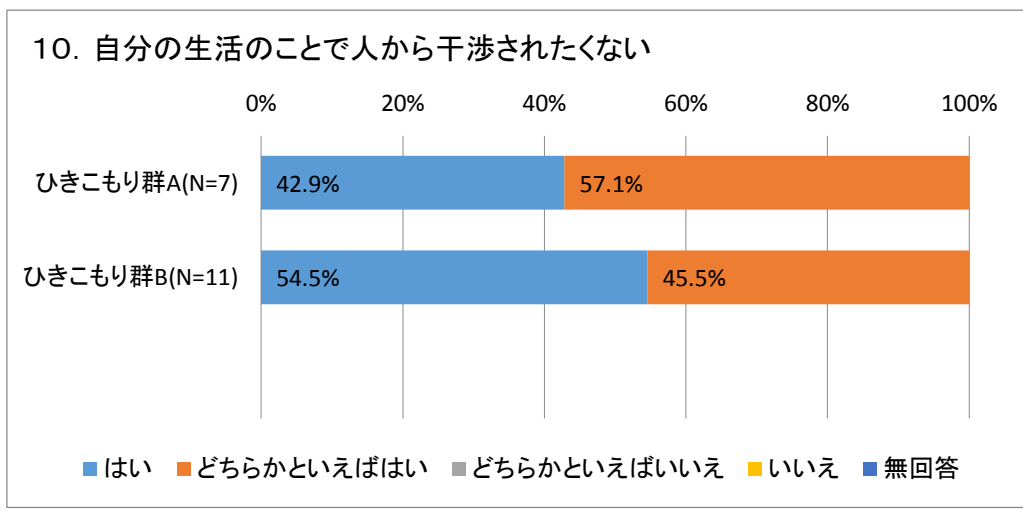
「自分の感情を表に出すのが苦手だ」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは85.8%、ひきこもり群Bでは81.9%であった。両群とも自分の感情を表に出すのが苦手な傾向にある。



「周りの人ともめごとが起こったとき、どうやって解決したらいいかわからない」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは71.5%、ひきこもり群Bでは63.7%であった。両群とも、他者との間に葛藤が生じたとき解決できる自信が低かった。

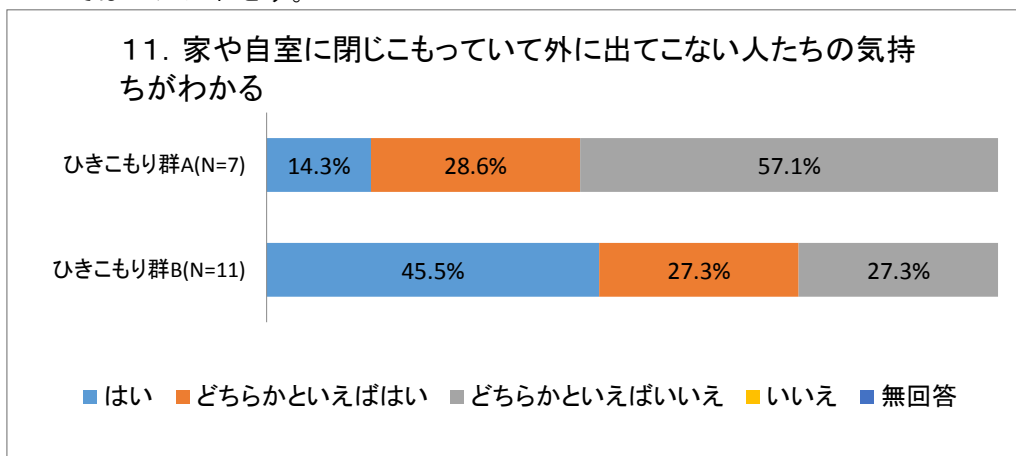


「たとえ親であっても自分のやりたいことに口出ししないで欲しい」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは71.5%、ひきこもり群Bでは100%であった。ひきこもり群A又はひきこもり群Bは、特にB群は自分のやりたいことについて他者から干渉されることを拒む傾向がある。

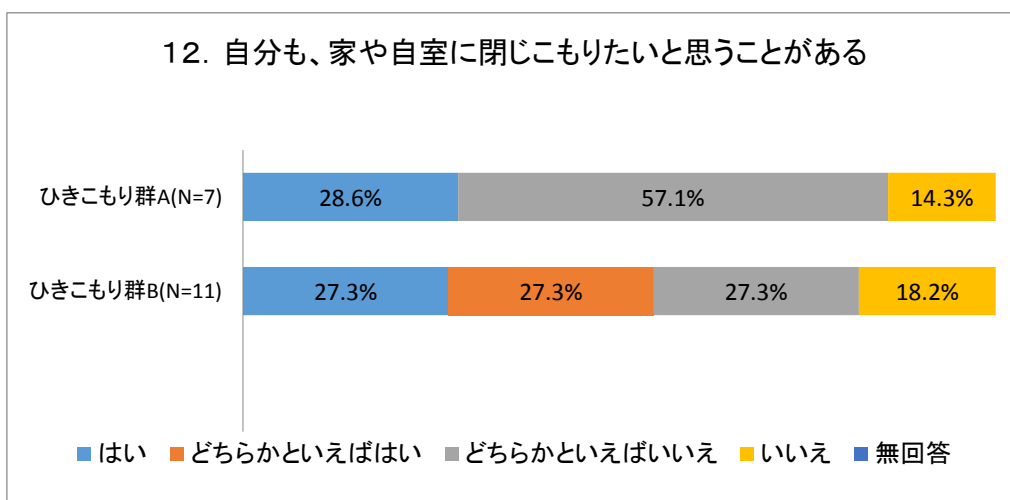


「自分の生活のことで人から干渉されたくない」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群A、ひきこもり群Bともに100%であった。両群とも自分の生活に人から干渉されたくない気持ちが特に強い傾向にあることが分かった。

問25 11～14はひきこもり親和群の定義に使用しているため、ひきこもり親和群についてはコメントせず。

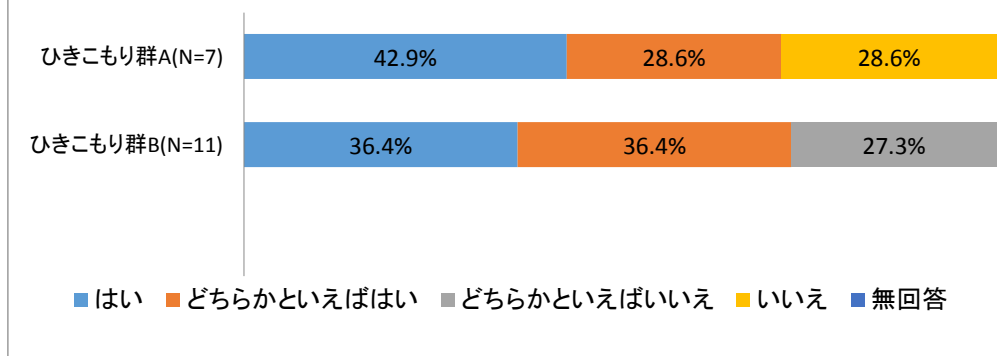


「家や自室に閉じこもっていて外に出てこない人たちの気持ちがわかる」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは42.9%、ひきこもり群Bでは72.8%であった。



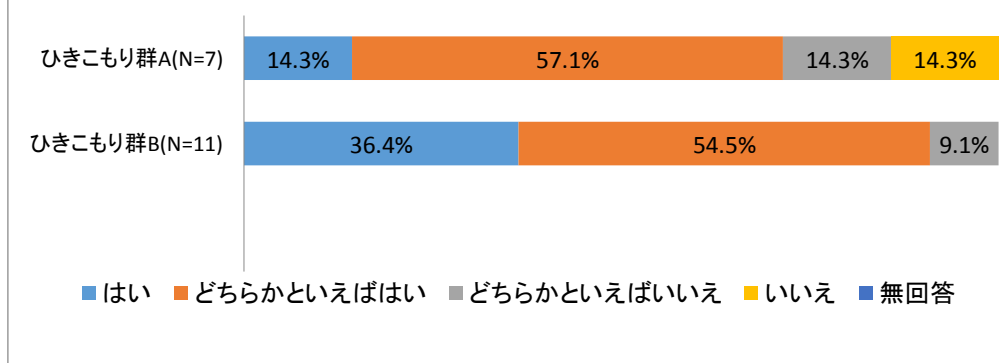
「自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは28.6%、ひきこもり群Bでは54.6%であった。

13. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる



「嫌な出来事があると、外に出たくなくなる」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは71.5%、ひきこもり群Bでは72.8%であった。

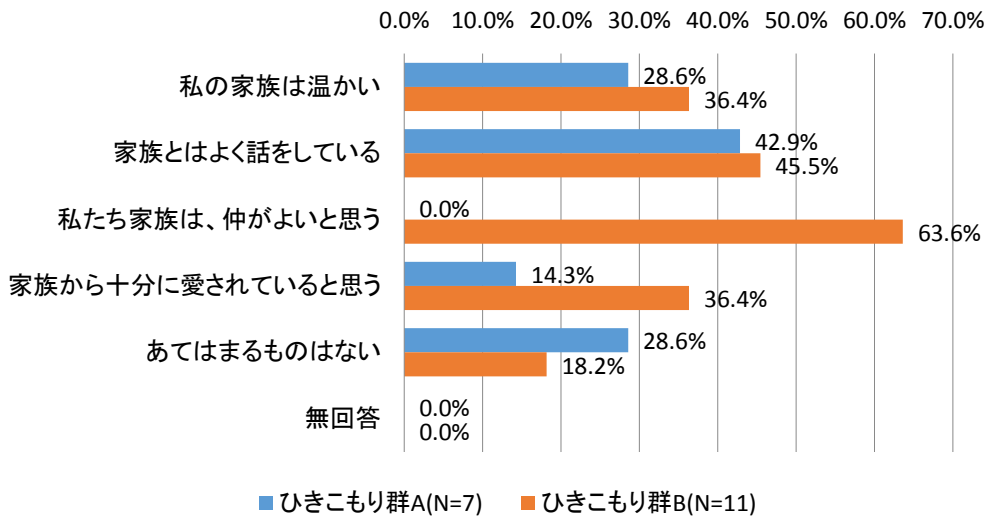
14. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う



「理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思う」について聞いてみたところ、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり群Aでは71.4%、ひきこもり群Bでは90.9%であった。

2.6 家庭の状況

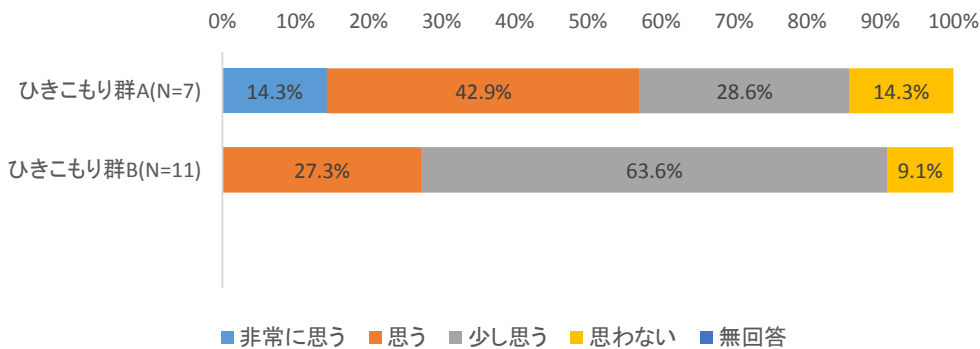
問26 次にあげられたことについて、あなたのご家族にあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでも)



家族についてあてはまることについて聞いてみたところ、ひきこもり群Aでは「私たちの家族は、仲が良いと思う」0%、「あてはまるものはない」28.6%とB群よりも10ポイント高くなった。また、ひきこもり群Bはどの項目も35.0%を超えており、ひきこもり群Aと比べると家庭に温かさを感じていることが分かる。

2.7 悩み事を誰かに相談したいか

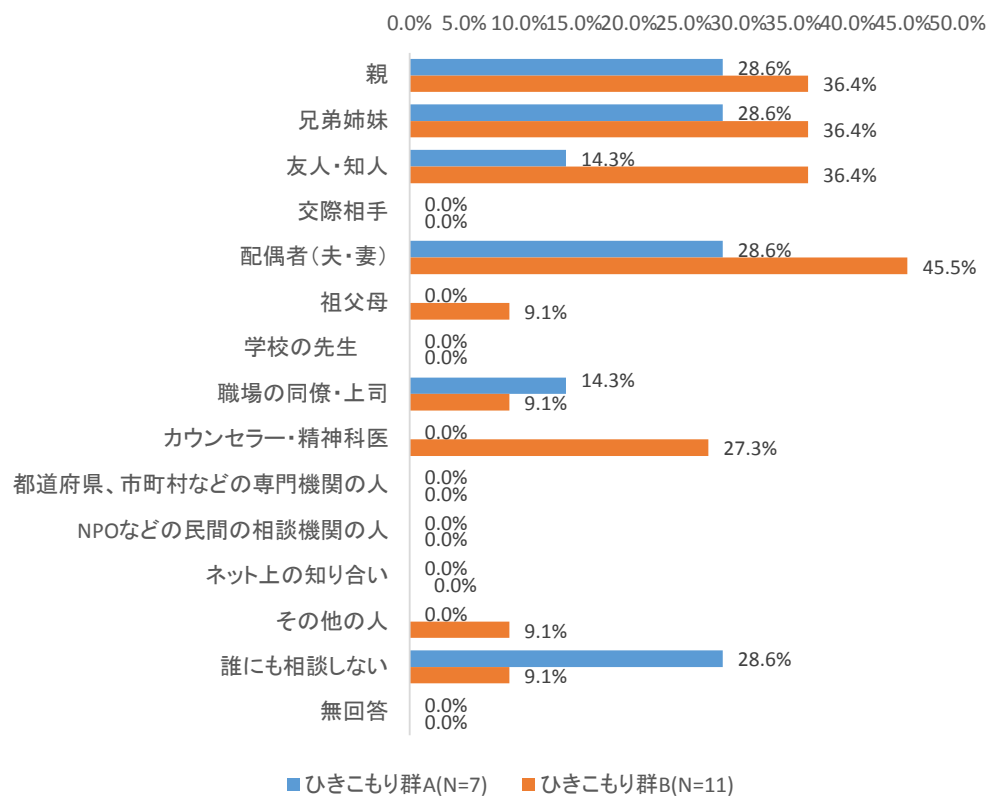
問27 あなたはふだん悩みを誰かに相談したいと思いますか。(○はひとつだけ)



悩みを誰かに相談したいかどうかについて聞いてみたところ、ひきこもり群Aでは「非常に思う」又は「思う」をあげた者は57.2%、ひきこもり群Bでは27.3%となった。ひきこもり群Bは、誰かに悩みを相談したいという気持ちが群Aと比べると非常に低い傾向にある。

28 悩みを相談する相手

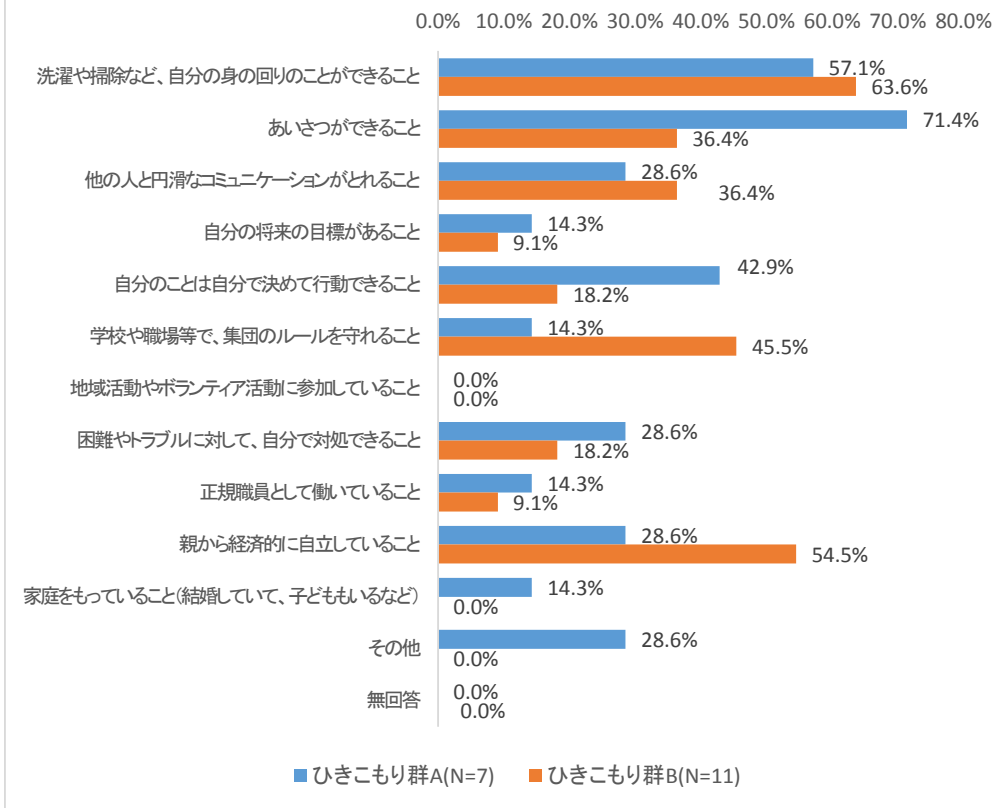
問28 あなたはふだん悩み事を誰に相談しますか。(〇はいくつでも)



悩みを相談する相手について聞いてみたところ、ひきこもり群Aで最も多かったのが、「親」、「兄弟姉妹」、「配偶者」28.6%で、「誰にも相談しない」も同じく28.6%となった。相談相手は身内に多いことが分かる。ひきこもり群Bでは「配偶者」45.5%、次に「親」、「兄弟姉妹」、「友人・知人」いずれも36.4%、「カウンセラー・精神科医」27.3%の順となった。「誰にも相談しない」は9.1%に留まった。ひきこもり群Bもひきこもり群Aと同様で、主に身内を相談相手とする傾向がある。

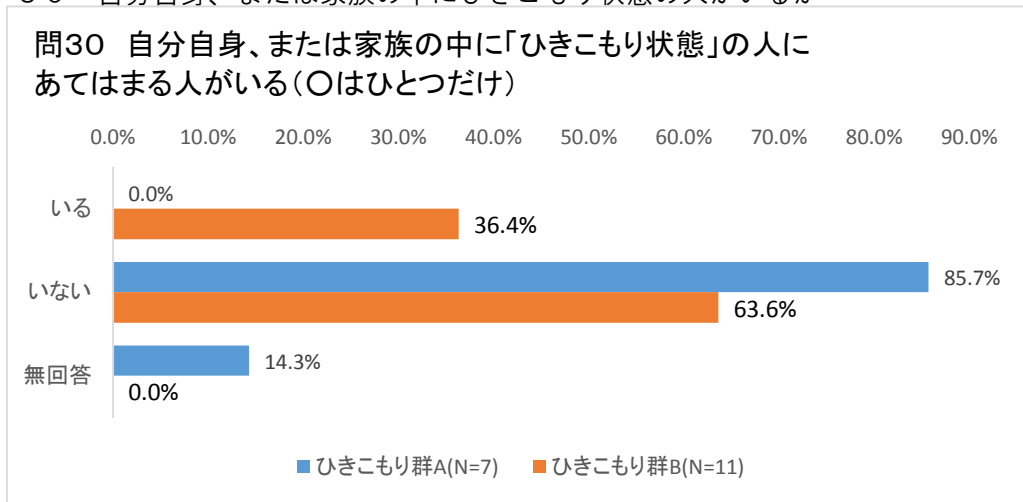
29 自立した若者の条件

問29 あなたが重要視する「自立した若者の条件」とは何ですか。(〇はいくつでも)



あなたが重要視する「自立した若者の条件」とはについて聞いてみたところ、ひきこもり群Aでは「あいさつができること」71.4%、「洗濯や掃除など、自分の身の回りのことができること」57.1%、「自分のことは自分で決めて行動できること」42.9%となった。ひきこもり群Bでは「洗濯や掃除など、身の回りのことができること」63.6%、「親から経済的に自立していること」54.5%、「学校や職場等で、集団のルールが守れること」45.5%となった。ひきこもり群Aは群Bと比べて、「学校や職場等で、集団のルールが守れること」や「親から経済的に自立していること」のポイントが低く、自立において経済・社会的な要素はあまり重視していない傾向にある。どちらかと言えば自立に対する概念として集団のルールや経済的な自立よりも自己を中心とした偏った自立意識があると思われる。

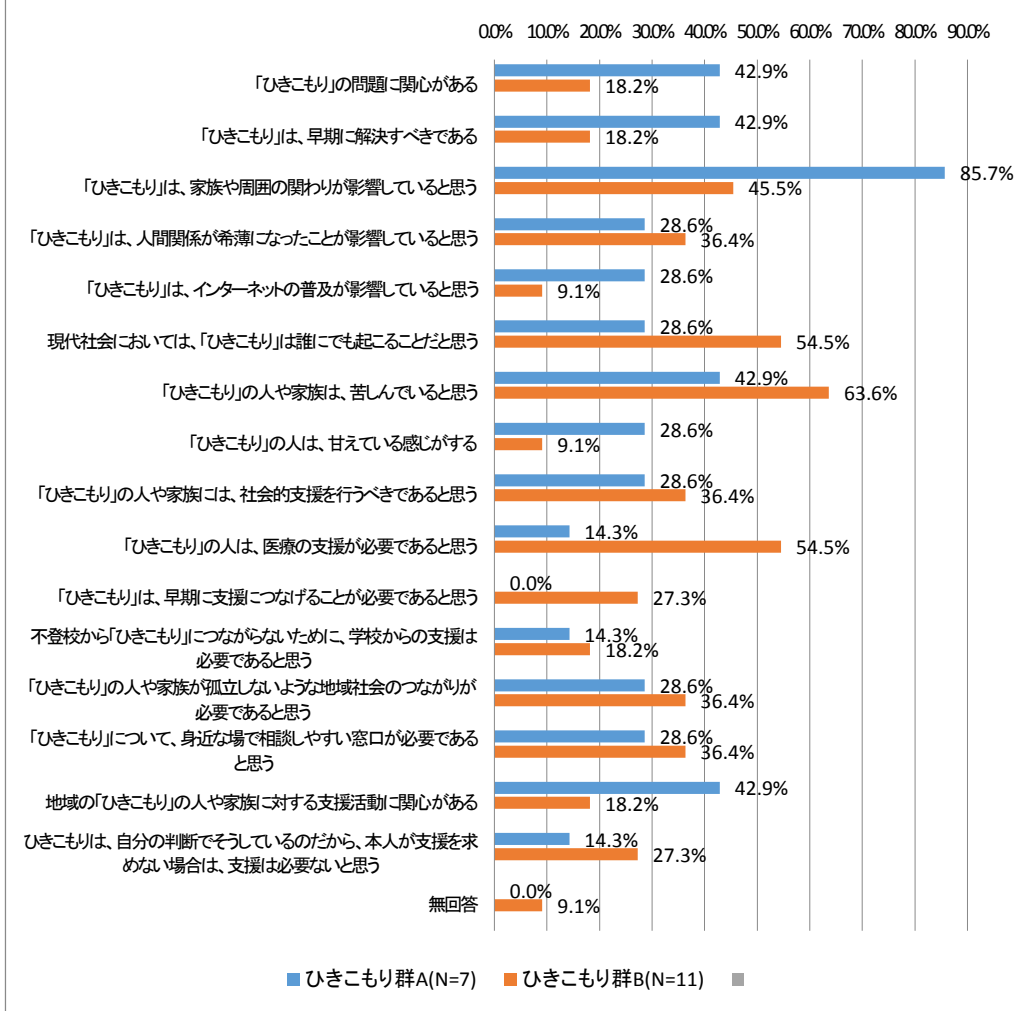
30 自分自身、または家族の中にひきこもり状態の人がいるか



自分自身、または家族の中にひきこもりの状態の人がいるについて聞いたみたところ、ひきこもり群Aは「いる」0%、「いない」85.7%であった。ひきこもり群Bは「いる」36.4%、「いない」63.6%となった。ひきこもり群Aは「いる」と回答した者が0%からも分かるように、ひきこもりという認識がないのかもしれない。

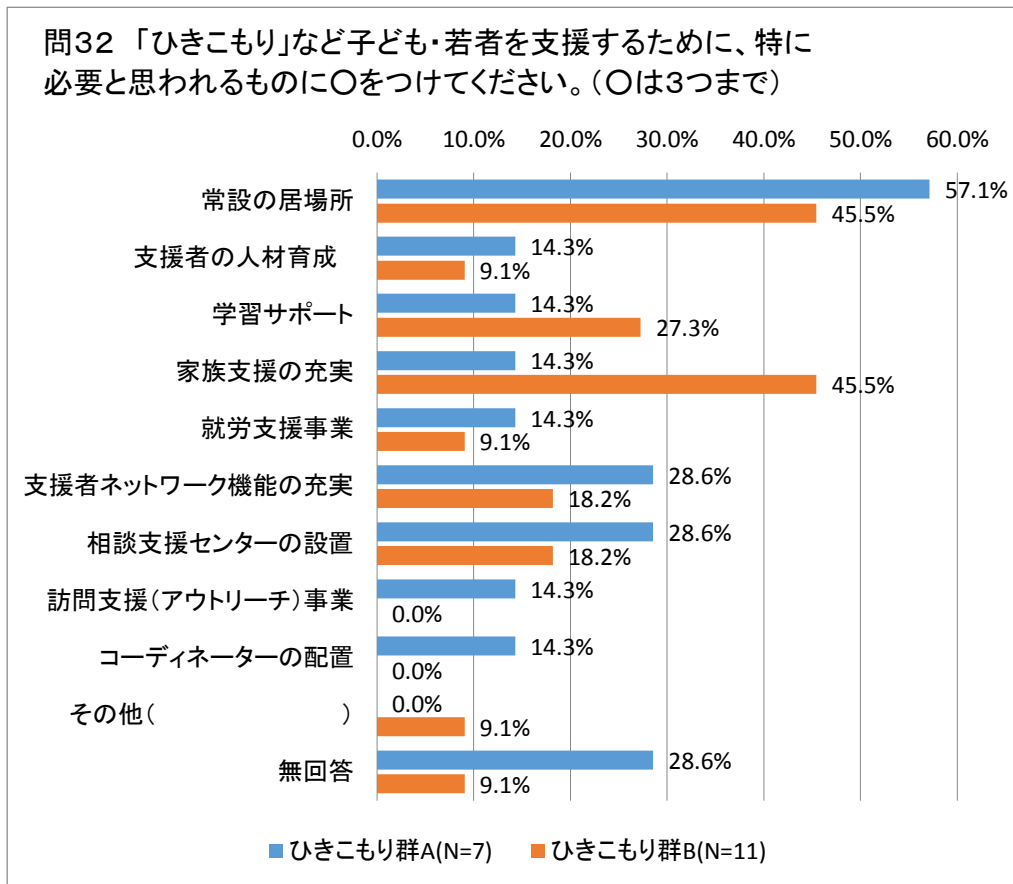
3.1 ひきこもりの背景やその考えと社会的な支援

問31 次に、「ひきこもり」の背景や、「ひきこもり」についての考え、社会的な支援についてお尋ねします。以下の1から16について、あなたのお考えに近いものに○をつけてください(○はいくつでも)



「ひきこもりの背景や、ひきこもりについての考え、社会的な支援について聞いてみたところ、ひきこもり群Aでは「ひきこもりは家族や周囲の関わりが影響していると思う」85.7%、次に「ひきこもりの問題に関心がある」、「ひきこもりは、早期に解決すべきである」、「ひきこもりの人や家族は、苦しんでいると思う」、「地域のひきこもりの人や家族に対する支援活動に関心がある」いずれも42.9%となった。ひきこもり群Bでは「ひきこもりの人や家族は苦しんでいると思う」63.6%、次に「ひきこもりの人は、医療の支援が必要であると思う」、「現代社会において、ひきこもりは誰にでも起こることだと思う」がいずれも54.5%となった。ひきこもり群Aと、ひきこもり群Bを比べると「ひきこもりの人は甘えている感じがする」がひきこもり群A 28.6%、ひきこもり群Bは9.1%となった。ひきこもり群Bの方がひきこもりに対して親和的であると言える。

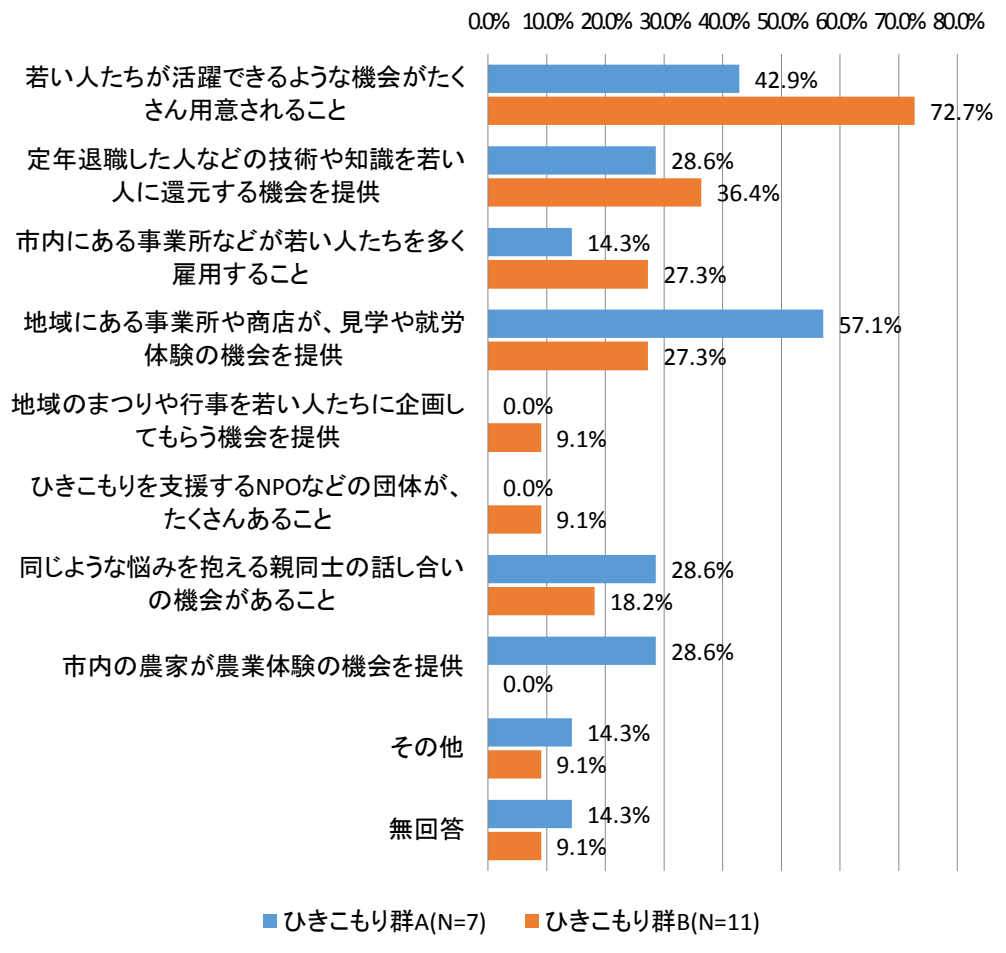
3 2 「ひきこもり」などの子ども・若者を支援するために特に必要と思われるもの



ひきこもりなど子ども・若者を支援するために、特に必要と思われるものを聞いてみたところ、ひきこもり群Aでは「常設の居場所」57.1%、次に「支援者のネットワーク機能の充実」、「相談支援センターの設置」がいずれも28.6%となった。ひきこもり群Bでは「常設の居場所」、「家族支援の充実」いずれも45.5%、次に「学習サポート」27.3%、「支援者ネットワーク機能の充実」、「相談支援センターの設置」がいずれも18.2%となった。ひきこもり群Aは、ひきこもり群Bと比べて「家族支援の充実」に消極的である。

3.3 地域社会に求められるもの

問33 若者が、学ぶことや働くことに積極的になるために、地域社会にはどのようなことが求められると思いますか。(〇は3つまで)



若者が、学ぶことや働くことに積極的になるために、地域社会にはどのようなことが求められるかについて聞いてみたところ、ひきこもり群A、ひきこもり群Bともに「若い人たちが活躍できるような機会がたくさん用意されること」が多かった。ひきこもり群Aでは「地域にある事業所や商店が、見学や就労体験の機会を提供」が57.1%とひきこもり群Bよりも高かった。また、ひきこもり群Bは「定年退職した人などの技術や知識を若い人に還元する機会を提供」36.4%、次に「市内にある事業所などが若い人たちを多く雇用すること」、「地域にある事業所や商店が、見学や就労体験の機会を提供」がいずれも27.3%となった。ひきこもり群Aは、地域にある事業所の見学や就労体験を重視しているのに対して、ひきこもり群Bは、事業所の見学や就労体験と同じく、雇用についても必要性を感じていることが分かった。